



善正寺だより

掲示板法話

どんな川の水も 一味の海水となる

大慈悲の世界 みんな解け合える

母親に続いて、父親も亡くされたお宅で、法要をお勤めの後、ご遺族の息子さんなどから、心配顔で相談を受けました。

「先に亡くなった母がお父さんと同じ墓に入りたくない、と遺言していただきました。だから今後、父の遺骨をここに納めたらいいのか、悩んでいるのです」という話です。どんな理由でお母さんがそんなことを言われたのか、分かりませんが、私は「今、皆さん一緒に唱和して頂いた『正信念仏偈』の中に、その答えが示されています」と聖典のページを繰り、お話させて頂きました。

「能発一念喜愛心 不断煩惱得涅槃 凡聖逆誘齊回入 如衆水入海一味」

意識すれば、「(阿弥陀如来の救いを)喜ぶ心が起れば、(貪り、怒り、愚痴などの)煩惱を断ち切らず(汚れた身のままで生命終わる時)、必ず仏と成ることができます。凡夫も聖者も極悪人もそれは変わりありません。様々な川の流が海に入ると一つ味の海水になるのと同じです」という訳です。だから、生前にどれほど意見が合わ



〒:512-0902

三重県四日市市

小杉町1014

浄土真宗

本願寺派

善正寺

☎:059-331-1670

fax:059-332-0733



善正寺
ホームページ

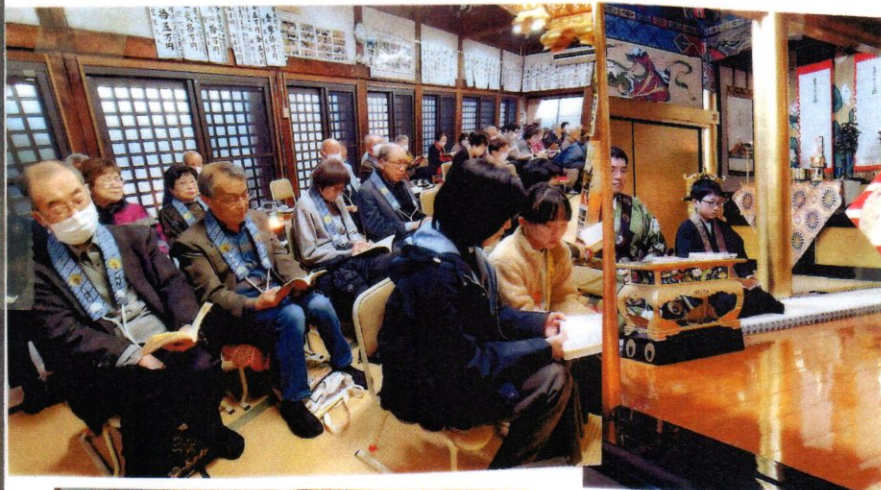


住職と坊守の
つれづれ日記

ず、対立したり、喧嘩するような間柄でも、みんな仏さまの大慈悲の世界の仏の一員とさせて頂くと領解すれば、解け合っているのです。しかも、亡き人はお墓の中に止まっている訳ではありません。お浄土の蓮の台の上でじつとしておられず、娑婆世界の私たちの所へお念仏の呼び声となつて懸命に衆生済度のために働き続けて下さるのです。お墓は亡き人を偲び、生前のご苦労に感謝させて頂くよすがとなり、私たちが、生死(まよい)を超える道を歩む機縁となる所ですね。……

すると、憂いの表情は一変、「正信偈の中にこんな有難いことが書いてあるのですか?それなら、安心して父のお骨を、母のお骨の納められてある墓に納骨できます。有難うございました」と喜ばれました。正信偈のお言葉に導かれて、こだわりの心が解き放たれたのです。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

☆写真アラカルト☆



☆行事ご案内☆

◇令和7年度の善正寺門信徒総会

5月18日(日) 午前10時半

小杉町清掃奉仕で例年より30分遅い開始

行事が出欠確認、欠席者委任状、持ち帰り弁当有、

三重組十三日講 5月13日 光了寺 藤澤信照師

三重組仏教講習会 講師 藤澤信照師

6月14日延長寺、15日覚照寺:西覚寺

夕方5時の鐘撞き年中無休、誰でも可、ご褒美の菓子

一縁会テレホン法話059-354-1454

三分法話、三重組5か寺が週替わり担当、40年継続

善正寺ホームページ過去の寺報ブログQRコードで閲覧

可、毎日更新ブログ住職と坊守のつれづれ日記大好評

一日約100人、開始17年9か月で46万9千訪問

新納骨堂後継者の無い方お墓でお困りの方相談下さい

新法縁廟境内俱会一処の石碑、石室に墓銘碑記入

法事場所でお困りの方本堂使用可、寺にご相談下さい

坊守スケッチ

思い出さずに忘れずに

変な題名だと思われたでしょう。

この言葉は、先代住職の三回忌法要の時に、現住職が父親の書き残したものを出版した本の題名です。本は現在、我が家に一冊残るだけです。

江戸時代の花魁が発した都都逸の一部で、正確には「思い出すよじゃ惚れよが薄い思い出さずに忘れずに」では先代住職は何を「思い出さずに忘れずに」だったのでしょうか？

次に先代が残した詩を紹介します。

「弥陀は六字に姿を変えて 私心に入り給ふ 腹立つ山も涙の谷もみ親に抱かれ明るく超える 念仏の道 浄土への旅」この詩を亡くなる3か月前に色紙に書き残し印刷し、四十九日法要の記念品にしました。

他にも晩年に「今聞いてすぐに忘れるわが身にもお六字だけは残る嬉しさ」という短歌もあります。このお六字とは『南無阿弥陀仏』です。

このように生涯を通して阿弥陀様を信じお念仏と共に生きられました。先代住職は三河の寺の次男坊に生まれ、6歳の時に母親の里の紀州に養子に出されました。しかし実子が誕生



生したので、再び三河へ戻されて、19歳の時に血縁のない善正寺へ入寺されました。その後の人生も苦難の連続でした。更に晩年は人工肛門を付ける体になりました。死の床について「痛い」「苦しい」「〇〇して欲しい」と無理は言わずに、「待つ」ことをされました。

先代住職と共に過ごした16年間は、仏様の教えを学ぶ貴重な時間でした。食事中に「お寺はなあ、世間がアホらしいと思うことをさせてもろてこそ本物やで」との言葉が、坊守としての指針になっています。謙虚で誠実だった先代住職の言葉を、私の方こそ「思い出さずに忘れずに」と心に刻み精進いたします。

お悔み申し上げます

★福永きよ子様(72) 3・18 小杉一

★松永紀美子様(82) 3・19 東茂福

★服部厚様(90) 3・22 小杉

カンパ有難う

TS様・矢田たず様・AK様・IS様



若坊守のコトコト日記No.124

新学期が始まりました。長女は五年生に進級し、とうとう高学年の仲間入り。登校班では班長を任せられました。登校班には新一年生が四人も入り、全部で九人の班になりました。長女は入学して以来、紅一点でしたが、ようやく女の子が一人仲間入りしました。それでも元気な男の子と低学年が多い班で、班長は中々大変かもしれません。そこで五月末まで保護者が順番に集合場所から通学路の途中まで付き添うことにしました。班長の保護者である私が調整役ですが、みなさん協力的なので助かっています。

きつと新一年生にとって最大の難所は長く続く坂道でしょう。慣れるまでは体力的に大変だと思います。慣れた六月頃が最も交通事故が多いと聞くので、十分に気を付けて欲しいです。送り出す親も色々な心配をします。どんな些細な事でも、その当時はとても不安に感じたものです。親が不安なことは早めに解決して、子供達を気持ちよく送り出してあげたいですね。



俳壇 & 柳壇

紅梅や参拝人を迎えをり 釋妙水

水仙や夫が逝っても傍に居る

椿落つ生きる力を絞り逸つ

春旅の湯舟に揺らぐ逆さ富士 釋樂邦

二筋の水尾引き駆ける春の鴨

列島がピンクに染まり山笑う

紅の梅の蕾が花開き 釋住安

石落の花豊かに咲ける裏の土手

集い来て柏餅をば食むふたり

目や口に入るを厭わぬ花吹雪 釋妙梅

生え替わる犬の毛の如春の山

葉桜へ後まかせよとツツジ咲く

若葉茂ゆ恭仁の宮跡今は里 釋妙鈴

末裔住む城番屋敷に梅かおる

陽春にスマホ放って背伸びかな

つちふる 釋妙玉

露や沈む太陽月のやう

新聞にあられのかけら落つ春夜 釋秀龍

男子の奇声ひびく部室や余寒

「赤ペンの替え芯」とメモ春を待つ

老桜の根元傾く川堤 釋清風

伊勢湾に濃霧垂れこめ春愁

一年生足取り軽し風光る

投げた匙これで拾うの何本目
芽が遅く出たから間引き免れる

(い藤をか志)

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」377号をお届けします。◇トランプ関税で、貿易戦争の気配、一体世界はどうなるのか？春愁の世！◇川柳の投稿も頂き、有難いことです。拙い寺報今後も「愛読を。」

國薫る若葉の季節です。大自然の営みは世界騒動とは関係なく時の流れを教えてくれます。トランプ大統領の関税宣言以来、世界各国は右往左往、世界経済の先行きが不安です。「晴れた日には葉が育ち、雨の日には根が育つ」と言うように、将来が見通せない時代こそ自分の内面に目を向けて、今までの生き方を見つめ直してみませんか？「無いものを数えれば不満が増え、有るものを数えれば感謝が増える」と先人は言いました。今まで恵まれた環境にあってもそれに気づかずウカウカと過ごしていた私自身を反省しましょう。最近はおペットを飼う家が多くなりました。家族が縮小し、近所つき合い、地域への関わり方が希薄になった現在、仕方のない現象でしょう。しかし周囲の人への挨拶や優しい言葉かけ一つで、あなたの世界が広がります。また人生百年時代を生き延びる智慧として、日々の規則正しい習慣が大切です。私も寺に嫁いで5年、早寝、早起き、散歩を一日の始まりの習慣にしました。おかげで医者通いも少なくて済みます。毎日来客やブログ投稿、寺報作成等のんびりする暇はありません。自分で運転して何処へも行けます。「自分の未来を変えていくのは、日々の小さな習慣の積み重ねが大切だ」と気づかせてもらいました。5月18日（金）午前10時半より、門信徒総会（例年より30分遅い開始、持ち帰り弁当有）皆様のご参加をお待ちしています。

合掌

令和七年五月

善正寺坊守拝